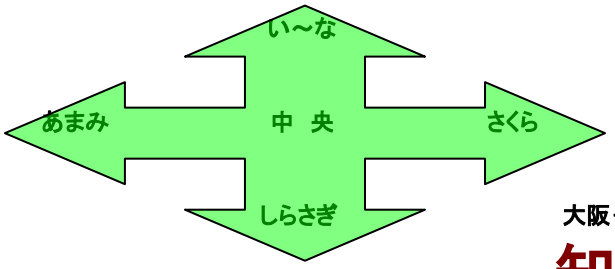


大阪＋知的障害＋地域＋おもろい＝創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 1701 号 2013.12.28 発行

==========

養育園問題で県　第三者委設置へ　　東京新聞　2013 年 12 月 27 日

袖ケ浦市の県立障害者施設「養育園」で起きた虐待問題で、県は二十六日、問題の原因を調べ、再発防止策や施設の管理運営の在り方を考えるため、第三者による検証委員会を設置する方針を明らかにした。

森田健作知事は同日の記者会見で、「組織体制に何らかの問題があるんじゃないかと思う。二度と問題が起きないよう精査していく」と述べた。

養育園では、少年（１９）が十一月に死亡した第二寮で、職員五人（いずれも解雇）による日常的な虐待があったことが県の立ち入り検査で確認されている。ほかの職員三人も虐待していた疑いがあり、虐待の相談を受けた施設長も県に報告していなかった。県は施設への立ち入り検査を続けている。（白名正和）

神戸市・福祉サービス事業所　不正受給で指定取り消し

MBS ニュース　2013 年 12 月 27 日

神戸市で障害者の支援を行う事業所が、架空の福祉サービスにより市からの給付金を不正受給したとして、市が事業所の指定を取り消しました。

事業所の指定を取り消されたのは、神戸市東灘区の「福祉ショップドリームス」が運営する、障害者支援を行う２つの事業所です。

神戸市によりますと事業所では、法律で必要と定められた福祉サービスの管理責任者がいないのに勤務する予定があると嘘の申請をしたり、ヘルパー資格のない者を働かせたりしていたということです。

また、実際には行っていない架空のサービスを元に、障害者支援の給付金を請求するなどして、神戸市からあわせておよそ２，６００万円を不正に受け取っていたということです。

市は加算金を含めたおよそ３，３００万円の返還を求めるとともに、詐欺の疑いで刑事告訴する方針です。

県職員　戒告後に不正発覚　　読売新聞　2013 年 12 月 27 日

県は２６日、障害者の自立支援を行う事業者の認定業務で不適正な事務処理があったと発表した。障害福祉課に勤務する４０歳代の男性副主幹が、申請された１６件を放置したり、上司の決裁を得ずに独断で認定したりしていた。副主幹は７月にも介護事業者の計１５６件分の認定作業を放置したとして戒告の懲戒処分を受けたばかり。県は「再発防止策が不十分だった」と陳謝した。

発表によると、不適正な事務処理があったのは、県内の障害者支援施設を運営する社会福祉法人などが今年２～６月、「一般相談支援事業者」の認定を受けるため、県に提出した申請１６件。副主幹は申請を受理した後、１件を放置し、１５件は上司の決裁を得ずに独

断で認定し、その後の認定書の交付を行わなかった。
事業者は認定書に書かれた認定番号を使って国などから支援業務に対する給付金を受けられるが、副主幹は認定した事業者に対しては電子メールで番号を知らせていたため、給付金は問題なく支払われていた。また、放置されていた事業者は給付金の申請を行っていなかったため、同課は「事業者に損害は発生していない」としている。県は今後、認定書を交付するという。
副主幹は７月に戒告処分を受けた際、「他に滞っている業務はない」と説明。同課では説明をうのみにし、実際の書類を確認する作業などを行わなかったという。平賀太裕課長は「自己申告の調査のみで終わってしまっていた。再発防止策が不十分で、事業者に迷惑をかけ、申し訳ない」と話した。県は今後、副主幹の処分を検討するとしている。

児相、条件整わず家庭復帰　男児虐待死　読売新聞　2013 年 12 月 27 日

和歌山市で起きた２歳の男児虐待死事件で、県子ども・女性・障害者相談センター（児童相談所＝児相）が、乳児院で保護していた男児を自宅で生活させる条件として提案した保育所への入所などの３項目について、父親が拒否したものの、家庭復帰させていたことがわかった。児相は家庭復帰まで、外泊などを１年以上続けるなど慎重に対応したとするが、専門家は「面会や外泊などを重ねるだけでは十分といえず、外部の目で見守るサポート体制を検討する必要がある」と話している。（上田貴夫）
児相などによると、昨年８月中旬から死亡した原星涼(せり)ちゃんを自宅で外泊させる直前、父親の和輝被告（２６）（傷害致死罪で起訴）らに、▽家庭復帰の際に母の両親に同居してもらう▽外泊中の様子を録画して提出する――ことを提案したが、家庭の事情などを理由に拒否された。
同１１月頃にも家庭復帰に際して保育所に入所させるよう求めたが、「３歳になってから上の子と同じ幼稚園に通わせたい」などと断られたという。このため児相は「早期の家庭復帰は難しい」と判断。外泊や面会などを重ねて様子を観察し、今年７月、自宅に戻した。
厚生労働省の指針では、「家族に家庭復帰の具体的な条件を明確に示さなければならない」とされており、外泊などを始める際には保護者に条件が達成されたことを伝えるよう求めている。
原被告らは、児相が求めた面会時間の約束を守るなど協力的な対応もしており、児相は「３項目の条件を満たせない代わりに、外泊の回数を重ねた」と説明する。
一方、今年６月に児相が家庭復帰の基本方針を決めた際、星涼ちゃんが入所していた乳児院の関係者が、「自宅に戻すのは早いのでは」と伝えたという。
昨年１２月～今年５月頃、同院で入所児童にかみついたり、発熱で体調を崩したりしたためで、原被告らが条件を認めないまま、家庭復帰させることについても懸念があったという。
児童虐待問題の専門機関「子どもの虹情報研修センター」（横浜市）の川崎二三彦研究部長は「保護者がうわべだけ、協力的な場合もあり、外泊などの回数だけを判断材料にすることは危険。家庭復帰から半年は極めてリスクが高く、２歳児でも保育所に入所させるなど、大勢の目で見守ることが必要だ」と話す。
児相の対応を巡っては、県が１１月に大学教授や弁護士らでつくる検証委員会を設置。２７日には３回目の会合が開かれる。

県立美術館　出店事業者の公募結果を発表　大分合同新聞　2013 年 12 月 27 日

県芸術文化スポーツ振興財団は２６日、県立美術館（大分市寿町）でミュージアムショップとカフェを経営する出店事業者の公募結果を発表した。ショップは千代田（同市）とオークコーポレーション（東京都）の共同企業体、カフェは社会福祉法人博愛会（大分市）をそれぞれ選んだ。

千代田は現在、大分市美術館のショップを経営。オーク社は全国１１カ所の美術館や博物館に出店している。「オリジナルグッズの作製や、地元の若い芸術家とのコラボレーションも考えている」と千代田。

博愛会は障害者福祉の取り組みの一環として農場やレストランなども経営。「久住高原産の野菜をメーンに使い、地産地消の料理を楽しめるカフェにしたい」と話している。

財団によると、ショップには２団体、カフェには７団体の応募があり、運営企画内容や経営安定性などについて審査。大分ならではのオリジナル商品・メニュー作りの取り組みも評価した。今後、新見隆（りゅう）館長や実務経験者を交えた運営委員会を設け、２０１５年春の開館に向けて具体的な営業内容を詰める。

廃棄物熱活用しハウス栽培　山形県が実証実験

河北新報　2013 年 12 月 27 日

廃棄物焼却炉の熱を利用するハウスでは、スティックブロッコリーが栽培されている

産業廃棄物を焼却する際に発生する熱エネルギーを有効活用するため、山形県はハウス栽培の実証実験に取り組んでいる。燃料費と二酸化炭素（ＣＯ２）排出量を削減し、雇用拡大につなげる。

山形市鋳物町の廃棄物処理業「キヨスミ産研」の隣接地に９月、約１２０平方メートルのハウスを設置した。スティックブロッコリーを栽培する室内は現在、ビニールのダクトから温風が吹き出し、約１０度に保たれている。

キヨスミ産研では、プラスチックや汚泥などの産業廃棄物を２４時間焼却する。炉を冷やす過程で生じる温水を熱交換機で温風に変えている。

ブロッコリーの栽培は、市内の社会福祉法人に委託し、障害者らが水やりなどを担当する。当面出荷はせず、法人施設やケアホームの昼食に提供されている。

県によると、１２～３月に灯油を使う場合と比べ、灯油が約３６００リットル節約でき、約９トンのＣＯ２が削減できるという。農産物の生育状況やハウス内外の温度などのデータを集め、自治体、民間事業者らに提供する方針だ。

県村山総合支庁環境課の松林茂課長補佐は「農業だけでなく温水の蒸気を使った発電など用途は広がる。経済性や環境貢献度などを検証し廃棄物熱利用を進めたい」と話し、実験を進める。

廃棄物熱を利用した農業施設は、福島県猪苗代町や千葉県市原市に先行事例があるという。

こども支援士の普及に力　学習や遊びの質高める

中日新聞　2013 年 12 月 27 日

教員と異なる立場で、小学生らの教育に関わる「こども支援士」の認証が今年から始まった。これまで延べ六十人が認証された。支援が必要な子への対応や、ニーズが高まる学童保育などでの活躍が期待される。

京都府宇治市の嘱託職員として、四月から市立小学校の学童保育で働く上門史明（うえかどふみあき）さん（２３）は、子どもへの接し方に戸惑っていた。「わざと大きな音を立てて、大人の様子をうかがうなど、何を考えているのか、分からないときがあった」

ヒントを求めて今夏、奈良教育大で「こどもパートナー」講座を受けた。宿題がなかなか進まない児童への言葉掛けについて、「今日は昨日より早くできたね」などの褒め方を具体的に学び、すぐ実践できそうな収穫があった。さらに学ぼうと十月、支援士を養成する

東京学芸大のＮＰＯ法人「こども未来研究所」（東京都小金井市）が、東京都内で開いた支援士の講座に参加。五日間（計三十時間）、子どもの心理や障害児への接し方などを専任の大学教授から学んだ。認証料を含む受講料は計四万円。

上門さんは、教授に投げかけられた「知的好奇心を揺さぶる」との言葉が印象に残った。小学生のころ、担任教諭が考えた、さまざまな種類のラーメンを入れた「ラーメン鍋」を校庭で食べた思い出が浮かんだからだ。「子どもが関心を持つきっかけになったり、記憶に残ったりする遊びを取り入れたい」と手掛かりをつかんだようだ。

「座学の充実と連携し、こども支援士も普及させていきたい」と話す浜松学院大の名倉一美准教授＝浜松市中区で

東海地方で唯一、協力大学として認定された浜松学院大では、小学校や幼稚園などの現場実習を充実しようと、こどもパートナーの講座を来年度から授業に組み込む準備をしている。現代コミュニケーション学部の名倉一美准教授は「パートナーの認証を取って、責任感を持って実習に臨んでほしい」と話す。将来的には支援士を取得し、小学校や幼稚園などへの就職につなげたいという。

同大では本年度から、特別支援学校教諭一種の免許が取得できるようになり、今年八月、近隣市町村の小学校教員や幼稚園、保育所の保育者を対象に、発達障害児への指導法を学ぶ基礎講座を開いた。パートナーより専門分野に特化した「こどもサポーター」の認証講座としたところ、予想以上の反響があり、受講者二十九人中、二十三人が認証を受けている。

支援士には、子どもに有意義な学習や体験をさせる人材を、民間から発掘する狙いもある。教員が事務作業などに追われ、子どもと向き合う余裕を失いつつあり、そこを補う人材養成が急がれる現状もある。こども未来研究所の小山田佳代理事は「この認証を取れば何かの職に就けるという制度的な保証はないが、社会的な認知度を上げていきたい」と話している。（福沢英里）

＜こども支援士＞　複数の教育系大学などが２０１１年に設立した一般社団法人「教育支援人材認証協会」が発案し、こども未来研究所が実務を担う。学校で学習補助員や支援員などとして活動する「教育支援士」と、学童や児童館などで活動する「アフタースクール支援士」の２種類。同年から、支援士よりも基礎的な内容を学ぶ「こどもパートナー」の先行認証が始まった。さらに専門性を身に付ける「こどもサポーター」を経て支援士となる人も多い。

ロボット特区の象徴に、国内初のリハビリ・介護複合施設オープン／藤沢

神奈川新聞　2013 年 12 月 27 日

最先端のロボット技術を利用できるリハビリ・介護複合施設が２６日、藤沢市のＪＲ辻堂駅近くに誕生した。介護サービスも一体的に提供する施設としては国内初という。ロボット産業を誘致・活性化しようと国から指定を受けた県の「さがみロボット産業特区」のシンボル的な施設にする。

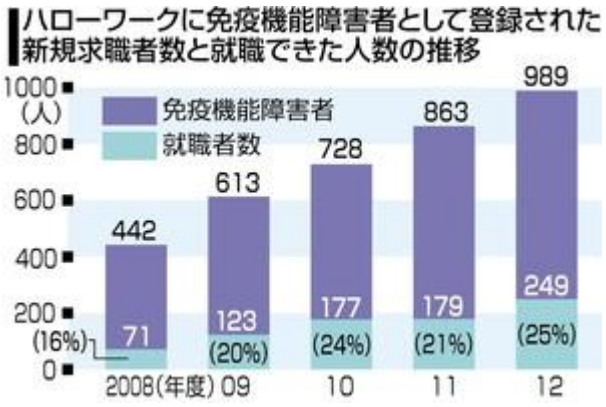
ロボットスーツＨＡＬを実際に使ってみせるスタッフ（左）＝藤沢市辻堂神台

同駅北口のオフィスビルに設けられた「湘南ロボケアセンター」で、ベンチャー企業「サイバーダイン」（茨城県つくば市）の子会社が運営。「ロボットスーツＨＡＬ（ハル）」を使って、リハビリなどの歩行訓練などができる。障害のある人たちが実際に使うことで、実証データを集めるとともに、施設の運営方法なども検証する。デイサービスなどの介護

サービスも提供する。
　ＨＡＬと歩行訓練機は５台用意され、１日当たり２０～３０人の対応が可能。希望者は同センターでカウンセリングを受けた上、１回９０分コースを１万円程度で使える予定。実際の利用開始は来年１月ごろになるという。
　開所式で黒岩祐治知事は「最先端の介護ロボットを日常的に使ってもらいながら、さらなる実用化に向けた改良を進めてもらいたい。ここから日本のヘルスケアの新しい形が見えてくるはずだ」とあいさつした。

＜はたらく＞ＨＩＶ感染、隠さず就労　「障害者枠」活用に関心

東京新聞　2013 年 12 月 27 日



　エイズウイルス（ＨＩＶ）感染者で、企業や自治体の障害者雇用枠を活用した就職に関心が高まっている。事前に感染を会社に開示するため、通院などの健康管理がしやすく、隠して働くストレスから解放されるという。企業などの障害者法定雇用率が、四月から０・２ポイント引き上げられたことも背景にある。（山本真嗣）
　ＨＩＶ感染者は「免疫機能障害者」として、身体障害者手帳を取得できる。企業は雇用すれば障害者雇用率に算定できるが、感染者が会社に伝える義務はなく、偏見や無理解を恐れ、伏せたまま働くケースが多いようだ。
　関東地方の衣料品関係の会社で働く四十代男性は二年前、障害者枠で正社員採用された。面接時に感染を伝え、配属前には職場でＨＩＶ勉強会を開催。二カ月に一度、通院が必要な現在の自分の状況や、将来の夢を説明。「自分の取扱説明書のようなもの。周りに理解しておいてほしい」
　男性は二〇〇四年に感染が判明。前の会社では個人情報が保護されるか不安で、伝えなかった。当時は月一回、平日に有給休暇を取って通院。税金の障害者控除も会社に知られないよう、確定申告で還付を受けていた。現在は会社が状況を把握しているため、余分なことに気を取られず仕事に集中。収入は減ったが「気兼ねなく通院でき、働きやすい」。
　厚生労働省によると、全国のハローワークに免疫機能障害者として昨年、登録した新規求職者は九百八十九人で、このうち就職できた人は二百四十九人と、徐々に増えている＝グラフ。同省研究班が〇九年に実施した調査では、就労中のＨＩＶ感染者約八百七十人のうち、障害者枠を活用したのは３・１％。一方で未就労者約二百六十人の６４％が枠の利用に意欲的だった。
　調査を担当し、ＨＩＶ感染者の就労を支援するＮＰＯ法人「ぷれいす東京」代表の生島嗣（ゆずる）さん（５５）は「感染が知られないかという、精神的負担を減らして働きたい人が増えているのでは」と分析する。
　障害者枠での待遇は非正規で給与が低かったり、仕事が単純な内容が多かったりする。それが近年は変わりつつある。人材紹介会社「インテリジェンス」（東京）によると、システムやコンサルタント、コールセンターなど高い技能や語学を必要とする業種で、働く上で比較的制約の少ないＨＩＶ感染者の能力を買い、障害者枠の半分を採用する企業も出てきた。
　経営的に多様な人材を確保する観点から、アクサ生命やジョンソン・エンド・ジョンソンは、これまで一人～数人の感染者を障害者枠で事務職などに採用。日本ＩＢＭでは障害者枠を設けず、一般と同じ選考で現在、営業職やエンジニアら四人（自己申告分）が働く。

日本ＩＢＭは「能力を発揮するため必要なことは、本人に提案してもらい、最大限実現に努める。それが会社の利益につながる」と話す。

働く上で感染者に健康上の問題はないのか。エイズ治療に携わる国立病院機構名古屋医療センター（名古屋市中区）の医師、横幕能行（よこまくよしゆき）さん（４３）によると、一日一回一錠から数錠の薬を服用する治療を続ければ、健常者と同様に働くことができる。「エイズは既に『死の病』ではない。早期に治療を始め、定期的に通院すれば定年まで十分働ける」という。日常生活でウイルスが唾液や汗、くしゃみ、せきなどでうつることはなく、「普通の接し方をしていれば、職場で感染することはない」と断言する。

ただ、偏見や差別も根強い。生島さんによると障害者枠で応募しても、面接で障害名を明かしただけで断られたり、職場に感染を伝えた後、休職に追い込まれたケースもあるという。「どこまで職場に開示するかや病状など、感染者の状況はさまざま。本人と雇用者側が十分話し合いながら、相談窓口を明確にしておくことが大切」と指摘する。

要支援者の名簿作成義務付け　宮城県、ガイドライン改定

河北新報　2013 年 12 月 27 日

大規模地震などの発生時、自主避難が難しい高齢者や障害者ら「要支援者」の迅速な行動を支援するため、宮城県は支援ガイドラインを改定した。災害対策基本法の改正に基づき、要支援者の名簿作成を市町村に義務付けた。地域住民が連携する「共助」の重要性を強調するとともに、平常時から見守る体制を構築し、災害時の援護に生かす方向性を明確にした。

東日本大震災の発生直後は行政機関も被災し、公的支援に限界があったことを教訓に挙げ、「地域住民や自主防災組織、民生委員らとの連携が重要。日常的な訪問活動や地域交流が不可欠だ」と指摘。社会福祉協議会や自治組織との連携を前提とした支援計画の策定を市町村に求めた。

作成を義務付けた、自力で避難することが難しい人の名簿は災害発生時、支援団体やボランティアらに提供することを規定した。平常時でも、支援者への提供に対象者が同意すれば名簿を見守り活動などに活用できる。

震災で民生委員らが避難誘導中に津波の犠牲になったことを踏まえ、支援計画には支援者の退避基準を明確化することも求めている。

高齢者や障害者を受け入れる福祉避難所については、運営の在り方や支援する人材の確保策、福祉施設への移送など閉所に向けた調整手順などを盛り込んだ。応援派遣で職員を確保するなどした今回の実例も紹介。避難所にいる高齢者や障害者らの体調管理のためのポイントも例示し、震災関連死防止にも役立てる。

災害対策基本法の改正などを受け、２００６年に策定した支援ガイドラインを初めて改定した。県は市町村に配布するほか、ホームページでも公開する。

県保健福祉総務課の担当者は「日頃からどうやって避難させるかということを念頭に置いて関係機関との連携や地域力を高め、非常時に対応できる体制を目指したい」と話している。

「育てにくい子」と感じたら…

読売新聞　2013 年 12 月 26 日

イラスト・いわしま　ちあき

掲示板「発言小町」に、１歳７か月の男の子を育てているお母さんから相談が寄せられました。「赤ちゃんの頃から自己主張が強く、抱っこやおんぶを嫌がり、気に入らないと大きな声で泣いていた」といい、最近は歯磨きや食事、遊びなど、ちょっとしたきっかけで暴れることもあるそうです。

お母さんは「イヤイヤ期に入っているのかな」と考えつつも、周りの子に比べると落ち着きのなさが目立つことなどから、「育てにくい息子は、何か発達障害だったり、おかしいのでしょうか？」とユーザーに尋ねました。

“育てにくい子”ってどんな子？

恵泉女学園大学教授の大日向雅美さん（発達心理学）によると、心理学者スーザン・ゴールドバーグは、三つの赤ちゃんの個性＝「行動の予測のしやすさ」「状態の読み取りやすさ」「反応のあらわれやすさ」が、親としての有能感・無力感を左右すると述べているそうです。「行動の予測のしやすさ」とは、「次にどんな行動をするのかな」と分かりやすいこと。「読み取りやすさ」とは、なぜ泣いているのかなど、その理由がはっきり分かること。「反応のあらわれやすさ」とは、泣いていても抱っこするとピタッと泣きやんだり、あやすとニコニコしたり、親がしてあげることへの反応がはっきりあらわれるということです。

「この三つがそろう子は、いわゆる“育てやすい子”なのでしょう。お母さんも怒らず、笑顔で子育てができそうです。でも、そんなふうにいつも三拍子そろった天使のような子はなかなかいませんね。ただ、どの項目もそれぞれ親との関わり方が大切で、親がどう行動を予測するか、状態を読み取るか、反応を受け止めて返してあげるか――によっても違ってくると思います。赤ちゃんとお母さん、お父さんの相互作用なのではないでしょうか」と大日向さんは話します。

もし、赤ちゃんが抱っこやおんぶを嫌がるなら、「どんなタイミングならご機嫌にしてくれるかな？」と探ってみることも必要でしょう。おっぱいを飲ませておなかがいっぱいになったときなら嫌がらないかもしれませんし、抱っこしてすぐ外に出掛ければ気分が変わって大泣きしないかもしれません。

逆に、「このタイミングでは抱っこしてもダメだな」と、行動パターンを予測できるようになると、少しはお世話が楽に感じられることもあるでしょう。親子のリズムがかみ合えば、「今日も怒ってばっかり……」と疲れずに過ごせそうです。

心配なのはお母さんの無力感

そして大日向さんは、「親としての無力感」を抱いてしまうことを危惧しています。「三つの項目で、『行動が予測しにくい』『状態が読み取りにくい』『反応があらわれにくい』と回答した場合、親として自信が持てないことが多いと指摘されています。誰もが最初から上手に赤ちゃんの気持ちや行動を読み取り、お世話することができるわけではありません。自分は母親として不適格だ、自分の子は“育てにくい子”だ――などと決めつけず、地域の子育て支援施設や保健センターなどで専門家に相談してみるのもよいでしょう」と勧めています。

また、「発達障害でしょうか」という相談も、最近、大日向さんのもとによく寄せられるそうです。「発達障害、ＡＤＨＤなどの言葉がよく使われるようになり、『うちの子の行動も当てはまるのでは』と気になる人が増えているのかもしれません。行政の健診を定期的に受けていたり、子育てひろばに出掛けたりしていれば、多くの赤ちゃんや子どもたちを見ている医師、保健師、発達相談員らの専門家がチェックしたり、相談にのったりしてくれるはずです。まずは健診をきちんと受け、『気になっている』と相談してみてください」とアドバイスしています。

三上博史、愛菜ちゃんを虐待！ドラマ「明日、ママがいない」

スポーツ報知　2013 年 12 月 27 日

俳優の三上博史（５１）が来年１月期の日テレ系連続ドラマ「明日、ママがいない」（来年１月１５日スタート、水曜・後１０時）で２０１０年４月期のテレ朝系「同窓会～ラブ・アゲイン症候群」以来、約４年ぶりに民放連続ドラマに出演することが２６日、分かった。主演の芦田愛菜（９）から「魔王」と呼ばれる児童養護施設の代表者役。子供に辛らつな言葉を投げつける一方、内面に苦悩を抱える複雑な人物になりきり、ドラマを盛り上げる。

三上が演じる佐々木友則は、病気や経済的な理由で母親と一緒に過ごせない子供たちが生活する児童養護施設「コガモの家」の施設長。黒のコートを身にまとい、つえをつき足を引きずりながら「お前たちはペットショップの犬と同じだ。泣け！」と暴言を吐く冷酷非情な人物だ。

９２年放送のドラマ「あなただけ見えない」（フジテレビ）で演じた多重人格者役など、役柄になりきる演技力に定評がある三上。「自分がこの作品に呼ばれたということは、多面的で立体的な人物だということ。簡単に決めつけず、一つ一つの感情を生々しく表現していきたい」と役割を理解し、意気込んでいる。

キャッチコピーは「２１世紀で一番泣けるドラマ」。芝居に関して「役作りはしない。自分の趣味志向をそぎ落とし、台本を読んでなじませる」という信念を持つ三上は「小手先のテクニックで泣かせにいくことはしない。先が読めないのが連ドラの面白いところ。偶然、現場で起こる『これ、いいじゃん！』を大切に作り上げたい」と話している。

人気子役の芦田愛菜、鈴木梨央（８）との共演については「撮影の意味を理解していて、小学生とは思えない。心で芝居ができてる」と好印象。「２人には何も考えず、本能でやらせてあげたい。僕自身、背中のファスナーを下ろしたら７歳の子供。そんな役者だから、手助けをしてあげたい」と今後の撮影を楽しみにしている。

「この役を演じるのは三上さんしかいない」と起用を熱望した福井雄太プロデューサーは「圧倒的な存在感で作品に深みを与えてくれる。親子の愛を描く上で重要なキーマンです」と期待を寄せている。

◆「明日、ママがいない」　芦田愛菜、鈴木梨央が演じる児童養護施設の子供たちが、幸せをつかもうと困難に立ち向かう物語。子供の目線から親子の愛を描く。松雪泰子（４１）と芦田が疑似親子を演じた「Ｍｏｔｈｅｒ」（１０年４月期）、満島ひかり（２８）と鈴木が親子を演じた「Ｗｏｍａｎ」（１３年７月期）と同じ水曜１０時枠で放送される。

子ども虐待防止訴え日本一周　元宮崎県職員がゴール

朝日新聞　2013 年 12 月 27 日

ゴール地点の宮崎県庁にたどり着いた甲斐英幸さん＝２６日午後４時２１分、宮崎市

【堀川勝元】子どもへの虐待防止を訴えて日本一周マラソンに挑んでいた元宮崎県職員の甲斐英幸さん（５７）が２６日、宮崎市に戻り、ゴールした。立ち寄った場所で講演を重ねながら、８カ月かけて約６３００キロを走破した。

雨の中、宮崎県庁で支援者ら約１００人が出迎え、笑顔でゴール。温かい拍手に包まれた。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

大阪市天王寺区生玉前町 5-33　社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会　社会政策研究所発行